

節税レポート



平成 18年 4月号

発行日 2006/4/3

今月のテーマ 損益分岐点

1. 同じ金額の支出でも、経理処理の方法により経費になったり、ならなかったりで税額に影響します。
2. 書類一枚提出しているかどうかで、認められる処理方法が異なり、税額に差が出ます。
3. 種々の角度から検討することにより、節税が可能になります。

I 損益分岐点とその使い方

	変動費	
限界利益	固定費	売上
	利益	

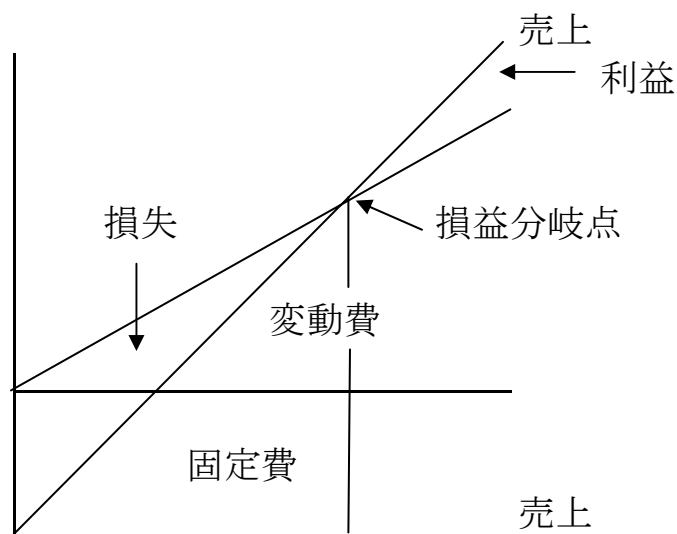
$$(\text{売上} - \text{変動費}) - \text{固定費} = \text{利益} \quad \text{算式 1}$$

$$\downarrow$$
$$\text{限界利益} - \text{固定費} = \text{利益}$$

$$\downarrow$$
$$(\text{売上} * \text{限界利益率}) - \text{固定費} = \text{利益} \quad \text{算式 2}$$

発行	岡崎駿志税理士事務所
住所	〒190-0022 東京都新宿区新宿6丁目27番10号 塩田ビル203
TEL	03(5287)6818
FAX	03(5287)6819
Eメール	okaza-oz@s2.webjapan.ne.jp
URL	www.kaikei-home.com/okazaki-office

1 損益分岐点図表(算式 1を図表化したものです。)



2 利益を上げるために、算式 2 より次のことが言えます。

$$\begin{array}{rcccl}
 (\text{売上} * \text{限界利益率}) & - & \text{固定費} & = & \text{利益} \\
 \downarrow & & \downarrow & & \\
 \text{顧客拡大} & & \text{仕入先変更} & & \text{経費削減} \\
 \text{売上アップ} & & \text{原材料費減} & &
 \end{array}$$

II 損益分岐点をどのように活用できるか？具体的数値で見てみましょう。

例	売上	100	
	変動費	-60	
	限界利益	<u>40</u>	(限界利益率 40%となる)
	固定費	-30	
	利益	<u>10</u>	

1 売上が幾らまで下がったときに利益が0となるか？

(損益分岐点は幾らか?) 売上をXとします

$$\text{限界利益} - \text{固定費} = 0$$

$$X * 40\% - 30 = 0$$

$$X = 75 \quad \text{売上が75のとき利益は 0になります。}$$

2 現在の利益 10を 20にするのに必要な売上は？

売上をXとします

$$\text{限界利益} - \text{固定費} = 20$$

$$X * 40\% - 30 = 20$$

$$X = 125 \quad \text{現在より売上を25 (125-100) 増やせば利益20を達成できる。}$$

3 現在の売上 100が 130に増えた場合の利益は？

$$\text{限界利益} - \text{固定費} = \text{利益}$$

$$130 * 40\% - 30 = \text{利益}$$

$$22 = \text{利益}$$

売上が 30 (130-100) 増えると利益が 12 (22-10) 増えるということである。

** 経営において一番重要な数値は固定費の額です。

つまり 売上が0になっても係る家賃、従業員給与等の額を把握しておくことが、重要です。

売上が0になった場合の損失額は幾らか？ということです。

